

加賀三湖干拓事業と木場潟公園

昭和28年ごろの
加賀三湖



国土地理院発行5万分の1地形図(小松、昭和28年)を使用

現在の加賀三湖



国土地理院発行5万分の1地形図(小松、平成9年)を使用

して水害をもたらした。

潟の水位を制することは地元農民の悲願で明治以来「今江水門(閘門)」の設置などさまざまな対策がなされたが、地殻変動に伴う地盤沈下が加わって有効なものではなかった。

昭和七年(一九三二)浮柳地内に「梯

川逆水門」を

新設し

て梯川

から今

江潟へ

の逆流

防止を

図った

り、中

小河川

能美丘陵と江沼台地の間に広がる平

野に加賀三湖と称する柴山潟(五五八

鈔)、今江潟(二五〇鈔)、木場潟(二一

四鈔)があつて、白山連峰を水面に映

す三湖の美しい景色は古来より歌人を

魅了し多くの漢詩の名作を残してきた。

三湖の流域約二万鈔の水は全て梯川を通じて日本海へ流出していたが、雨

季の増水によって梯川下流の水位が上

がるに伴い三湖の水位が上昇すること

しばしばで、潟沿岸の水田が水没する

被害を生じた。また、潟水期には海水

逆流による塩害が発生したほかに、冬

季には季節風による高浪で梯川河口が

打ち上げられた砂礫で閉塞してしまい、

行き場を失った梯川の水が三湖へ逆流



梯川逆水門



干拓された今江潟のかつての風景

き時がきたと三湖干拓計画が取り上げられ、昭和二十七年農林省は国営加賀三湖干拓事業を開始した。
 柴山潟は六〇％に相当する三四三・二鈔を干拓し、新堀川を新設して排水する。

今江潟は全部を干拓して農地とし、大規模農業を育成する。

木場潟は遊水池として残すが、事業名称は「加賀三湖干拓事業」のままとして変更せず、昭和四十四年干拓事業が完了した。

石川県立木場潟公園は昭和四十八年

の改修など局所的な排水事業が行われてきたが、食糧増産が要望されるなか根本的な対策を施すべ

に都市公園として計画された。湖面と周辺地域合わせて一九四・六鈔（内潟面積一一四鈔）が指定され、昭和五十七年十月十七日開園式が行われた。石川県内ではほぼ自然のままの形で残された唯一の潟で、古来からの水郷環境が守られている。

潟を取り巻くように一周六・四キロの周遊園路が設けられているほかカヌー競技場多目的グラウンド、ボートハウス、釣り桟橋、菖蒲園、水草園



昭和57年(1982)10月の木場潟公園開園式



潟の周囲を巡る園路



現在の木場潟全景



木場潟を舞台に繰り広げられるカヌー競技大会



水質浄化を促進する「水と緑のふれあいパーク」につくられたピオパーク

と水質改善施設の「水と緑のふれあいパーク」などがある。
 カヌー競技場では石川県カヌー協会主催の全国大会が常に行われている。

(犬丸博雄)